

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム春の山		
所在地	福岡県八女市上陽町北川内182番地1		
自己評価作成日	令和2年5月20日	評価結果確定日	令和2年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホーム春の山では、朝のミーティングを毎日実施し、その日の重要点などを出勤者全員で共有するようにしている。また、その日の目標や責任をもって実施する業務などを、ひとりひとり発言することで、入居者の生活も職員も1日が充実するようにしている。
入居者の生活やサービスが画一的にならないよう、ケアプランを見直す際よく話し合いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では当事業所を含めグループホーム2か所、デイサービス、居宅1か所を運営しており、「グループホーム春の山」は上陽町の過疎地域の中にあっても地域の方が住み続けられるようにとH24に開設された。平屋建てでお互いに顔が見える明るいリビングを構え、広い敷地を十分に生かしている。利用者が室内に閉じこもらず活動的に過ごしてもらえるように日課に散歩や体操などを取り入れて日々継続している。法人本部とも連携して合同でレクリエーションをしたり、ボランティアの受け入れをしたりと職員同士でも協力してサービスを提供している。事業所独自の研修のほか、法人でも年に4回合同での研修会もあり、一体的にスキルアップにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はひとりひとり名札に理念が書かれた紙を入れている。毎朝のミーティングで理念を唱和をしている。 また、各ユニットリビング、事務所、玄関に貼りだし、いつでも意識できるようにしている。	事業所独自の理念が開設当初からあり、当時の職員同士で話し合って3つの理念を作り上げた。法人理念もあるが事業所理念も関連しており、主に独自理念を中心に共有している。日々の唱和などによって共有も進め、利用者への対応についても理念に基づいて話し合って取り組まれている。入職時にオリエンテーションで理念について伝達している。	開設から7年が経ち、理念も共有されているが改めて職員同士で、理念について触れる機会をもって見つめなおす取り組みをされてもよいのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はない。 職員が近隣のお店を利用したり、入居者と散歩に出かけたりしている。 地域の方に、どういう施設なのか知っていただきたいと考え、運営推進会議の案内は、民生委員や行政区長、北川内駐在所にも出している。	上陽地区のお祭りが年に2回あり、その際は利用者と一緒に参加し、地域住民との関わりの場にもなっている。他法人の事業所とも協力して運営に関わることもあり、イベントの際に相談窓口を設置している。毎年の敬老会にはボランティアで地域の小中学校から来てもらうこともある。	高齢化率の高い地域において、行政区長や民生委員とも協力して、地域に対しての情報発信や共同の取組などが検討されることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、事例報告を年に1、2回実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。内容は年度末にアンケートを実施し、参加される方が興味をもたれるような内容を考えている。事例報告や避難訓練は毎回皆さんの意見が出て、今後の改善の良ききっかけとなっている。	リビングで開催し、行政区長、民生委員、地域包括、社協、市職員、消防、警察など、地域の関係者に幅広く参加してもらっている。概ね平日の昼から開催するが、敬老会の際には日曜日に同日開催し、家族の参加も促し半数程度が参加された。会議では行事報告や事故報告なども行い、参加者も多いため地域情報をもらったり、質問や意見をもらうことも多い。議事録は全家族に郵送で報告している。	参加される方の顔ぶれが固定し、内容もマンネリ化してきた側面もあるので、テーマを設けて、地域との関わりが深まるような会議運営が検討されることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から密に連絡を取る機会は少ないが、毎回運営推進会議には参加していただいております、助言いただくことも多い。	運営推進会議には毎回市の職員が参加されるため、その際に質問や相談などをすることが出来る。それ以外にも聞きたい事がある際には電話などで伺って回答を得ている。空室状況や情報は変更があった際に報告し市のHPで公開されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず開放している。 運営推進会議と一体的に実施している身体的拘束適正化検討委員会は、施設内で起きていることを報告することで、今後身体拘束につながらないようにしている。	玄関施錠はしていないが、帰宅願望の強い方がいる際には見守りの強化やセンサーなどを使って対応している。拘束についての研修は事業所、法人それぞれで実施している。以前四点柵の利用があったが、期間を決め、見直しも行い、解消に向けての取り組みを行った。不穏な方がいた際も無理に引き留めず見守りや付き添いによって本人本位の対応を心がけている。	

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。見えないところで虐待が起きないように、入居者の些細な言動や職員の気づきを、ヒヤリハット報告書で共有することもある。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務所、玄関に資料を準備している。成年後見制度を利用されている方がおられるため身近に感じている。	入居前から成年後見制度を使っている方がおり、外部の後見人とのやりとりがされている。制度についての説明資料も準備し、必要時には渡すこともできる。市が主催する権利擁護の研修がある際は参加し、毎年法人独自の研修も実施している。職員も一般的な知識については理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、詳細に説明をしている。入居されてからは、必要な部分はその都度、再度説明しなおしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎のアセスメント時と家族面会時、状態報告時に家族からの聞き取りを行っている。また、入居者からは半年毎のアセスメント時以外にも、日頃接する中で些細なことでも記録に残し、職員全員で共有している。	家族からは面会時に意見を聞いており、遠方の方や疎遠な方については電話でやり取りしている。感染防止の観点で面会が難しい際にも予防措置を施した上で、電話や面談室での対応をしている。敬老会の際には家族も半数程度が来られその際に意見を頂く機会を作っている。毎月の請求と一緒に、利用者ごとの生活状況の報告を管理者が作成し発送している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者だけで決めてしまわずに、朝のミーティングや定例会、申し送りノートなどで、〇〇について意見をくださいなどと意見を求めるようにしている。	毎月定例会を事業所全体で行い、常勤職員が主に参加している。出られない職員には資料や議事録で共有し、事前に意見聴取も紙ベースで行い、反映させている。利用者についての意見も毎回話し合い、すぐに取り組んでいる。日頃も管理者に対してや、職員同士での相談もしやすい。記録様式の変更も職員からの提案で柔軟になされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員に日頃から声を掛けるよう意識している。定例会には本部より出席し、職員の意見や施設内で起きていることを一緒に検討している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別等を理由に排除していない。20代から70代の職員が働いている。得意なこと、苦手なこと、体力的に難しいことなどを理解し、できることを積極的にのぼせるようにしている。	男女比は1:9程度で、2年ほど前から海外からの実習生の受入れも法人でしており、対応についても法人で勉強会を行っている。職員の能力や特技を生かして、制作物やレクでの取り組みなどに繋げている。研修案内も全員にされ、希望も出すことが出来る。休憩時間も別個に取られ、スタッフルームも確保されている。	

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を開催している。 以前、市から人権についての勉強会のお知らせが届いたが、参加につなげることができなかった。	高齢者、認知症の方の対応についての研修を法人単位でしており、事例を元に報告・発表をしている。直近では「介護職員の倫理」をテーマに勉強会を行った。市が主催する研修には機会があれば参加し、難しい場合にはDVDや法人保有の資料を使った内部研修も実施している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりひとり担当業務をもっている。得意なこと、苦手なことがあるため、得意なことはのばし、苦手なことは得意な職員の助言をもらいながら協力しあって取り組んでいる。職員同士の良い関係が築けているように感じることが多い。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の案内は全職員が確認できるようにしている。他施設や病院からの新規入居相談などの対応を、管理者や計画作成担当者以外の職員が携わる機会も増やしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず面会をしている。特に、入居前の自宅での生活の様子を聞き取ることを大切に考えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせの時点から、これまでの様子や悩みなどを拾い上げるように意識して対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの話をじっくり聞きながら、必要な支援を、担当職員が中心となり検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできることはしていただいている。また、調理や、編み物、漬物作りなど職員が入居者に教わることも多い。 入居者から声を掛けられて元気になったという職員も多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を一番楽しみにしておられるため、ホームに来ていただく機会を増やしている。日頃の様子報告をこまめに行い、家族の意見をいただいている。職員は対応が難しかったり、なかなかできないことを家族に依頼したり、職員だけで頑張ろうとしないように頼っている。		

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別でドライブを計画し、自宅周辺やよく話題にできる場所に出かけている。長年親しんだお店に行き、店員さんより声がかかって、とても楽しい時間を過ごせたこともある。 住んでおられた地域の祭りには毎年出かけている。	家族以外の知人や友人から連絡をもらい、面会に来られることもある。個別ケアによって、利用者一人一人に対しての希望を叶えることも年に数回行っている。家族にも相談して連れ出してもらい、正月に一時帰宅する方もいた。入居前の情報も把握し、馴染みの関係や場所についても仕入れるようにしている。関係が疎遠になっている方についても事業所から働きかけて連絡をとったり、外に連れ出す支援も行う。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	帰りたいと不安になられる時は、その方が信頼されている入居者をお願いして、一緒に過ごしていただくことが多い。職員が接するよりも不安解消に効果がある。 仲良しの方が入院されると、元気がなくなるくらい日頃から自然に関わり合いが多い。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をしている。家族から経過の連絡を受けることもある。長期治療で退居された方が、再度申し込みをされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動を詳しく記録に残している。その記録から、意向の把握につなげている。認知症ケア=入居者どなたにも当てはまると考えず、一人一人の生活歴や性格などを考慮している。	入居時に基本情報は本人と家族から口頭で聞き取って記録し、入居前の生活状況など独自様式で詳細に記録している。入居後はアセスメントを半年ごとに見直し、現場の職員からも聞き取って記録に反映させている。認知度のチェックについても定期的に管理する。日々の記録から申し送り、プラン変更にも活かしている。意向の把握が難しい方には表情や反応を観察し、家族にも伺いながら対応を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に詳しく聞き取りをしている。家族から直接記入していただく書類もある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤したらすぐ両ユニットの申し送り簿を各自確認するように徹底している。いつもと違うことは記録の特記事項に詳しく記載している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に、本人、家族、担当医、入居者担当と話し合っている。訪問診療や薬局などにも頻りに相談ができています。	職員を担当制で割り振り、家族とのやり取り、モニタリングなどを受け持つ。プラン見直しは随時変化があった時か半年の定期で行い、見直し時に担当者会議を開催する。家族や医師からの意見照会も必要時には行っている。ケアプラン目標を日々の介護記録にチェック項目として記載しており、全職員が把握できるように共有されている。	

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録は詳細に残している。様子だけではなく、対応なども記載するようにしている。入居者担当職員と計画作成担当者が、毎月、その記録を見直ししながら、モニタリングを実施し、翌月のサービスや介護計画の見直しにいかしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝のミーティングで、その時の様子などを確認し、いつもはこうしているが、今日はこういう対応に変更してみよう、など、柔軟に変更している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住んでいた場所の敬老会等に参加される方もいる。ひとりひとりが出来る事、得意な事を発揮できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はこちらから指定していない。現病歴や通院の距離、急変時の対応などを考慮して、こちらから提案することもある。	提携医はおり、看取りまで希望される方については紹介し、変更される方も多い。隣にクリニックもあり、そこを使われる方もいる。外部の受診についても事業所が介助し、遠方になる際などには家族にも支援を要請する。医療や健康状態についても毎月おたよりで報告する。訪問看護と連携し、毎週1回以上の定期訪問により健康管理している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日頃の様子をよく把握しているため、何となく様子が違うという早い段階から報告をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった時に、病院側と話し合いをしている。また、入院中、病院の担当者と経過をみながら、退院時期や今後について話し合いをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について指針を整備し、入居日に説明や意向の確認をしている。ケアプラン更新時に意向に変化がないか確認したり、入居者との日々の会話から本人の意向をキャッチしたりと、確認が一度きりにならないようにしている。説明だけでは、重度化するとはどういうことなのか、春の山での看取り介護とはどういうことなのか、イメージがつかない方が多いため、これまでの事例を報告する機会を設けている。	当初は行ってなかったが、家族からの要望もあり数年前から指針を定め、入居時に説明し同意を頂いている。これまでも数名の方の看取りを行った。提携医も看取り支援を行っており、24時間オンコール、駆けつけもしてくれている。看取りの時期が近付いた際には家族への説明を丁寧に戻して行い、根気よく理解を得るためのコミュニケーションをとっている。ターミナルケアについても法人研修や事例共有などを定期的に行い、機会があれば外部研修の参加もする。	

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署で応急手当普及員資格取得講習会に参加している。数年経過し、再講習を受けることで再確認もできている。避難訓練や、勉強会でもとりいれている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。地震後の火災、職員が少ない夜間、パート職員が多い昼間などを想定した訓練を実施。地域の方の参加もあり、違った目線での意見が多く出ること、少しずつ改善している。	年2回とも消防署にも立ち会ってもらい、昼夜想定でそれぞれ行っている。消防団との関わりもあり、非常時の協力をお願いしている。過去に水害の被害もあり、想定したマニュアルも準備されている。運営推進会議と同日に避難訓練することもあり、地域の方にも参加してもらっている。水や食料品やカセットコンロなどの準備もなされている。AEDの設置、救命訓練もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときは必ずソックをして、ひと呼吸をおいてドアを開けるようにしている。また、不在時には入らないようにし、入るときは了解を得るようにしている。 排泄や入浴介助でも、周囲から見えないように、きちんとドアを閉めるようにしている。	接遇や言葉遣いについての研修も定期的に行っている。プライバシーを尊重し、居室についても開けっ放しにしないようにし、何かする際もその都度声をかけるようにしている。写真利用についても入居時に書面で同意を得るようにしている。男性職員は元々少ないが、同性介助などについても本人の意向に沿って対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの理解力や判断力にあわせて対応をかえている。毎日の日記記載から希望などを知ること多い。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望に沿うことは難しいが、ペースをあわせることは大切だと考えて接している。外出などの希望は、その日難しい場合は、代替日を提案している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備は、職員だけでしないようにしている。化粧やヘアカラーをする方もいる。朝、化粧をして出てこられる方には、「口紅の色がいいですね」等、話題にして、更に気分がよくなるようにしている。家族からプレゼントにもらった洋服や帽子を気に入って身に付けられるかたも多い。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、皿へのつぎわけ、後片付け等、それぞれにできることをしていただいている。漬物やじゃがいもまんじゅう作りは、大変盛り上がる。	担当職員が作成したメニューに対して、地域の食材配達があり、日々の調理担当の職員が内部で調理している。下ごしらえなど出来ることは手伝ってもらい、おやつレクなどを皆ですることもある。食べたい物の希望を聞いたり、感想も聞いて対応することもある。外食レクとして半年に1回程度、地域の飲食店に赴き、食べたい物を注文してもらっている。職員は別個に食事をとっている。	

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	薄味、塩分控えめでの提供を基本としている。食べる楽しみは重要であるため、献立や味付けは、今入居されている方の好みを取り入れている。食し低下されている方や、食べ物だと認識が難しくなっている方には、栄養バランスよりも、好む物を優先して提供することもある。摂取量は毎回チェックしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを基本としている。ひとりひとりのケアの様子を観察し、過剰な介助はしないが、不十分な方が多いため、声掛けや仕上げ介助など取り入れている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座っての排泄を基本としている。しかし、最近では、身体への負担や、移乗時の転倒のリスクを考慮し、ベッド上での排泄介助に変更した方も数名いる。	それぞれの個別記録内に排泄チェック表があり、24時間の排泄状況を記録している。排泄の失敗が多かった方に対して、声掛けの頻度を増やしてトイレ誘導をするようになり、改善につながった。立ち座りが不安定な方も下肢筋力の改善によって自力でトイレ移乗できるようになった。職員同士で気づいた改善点を申し送りノートに書いて毎朝の申し送りで話し合い、ケアにもつなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について、勉強会を実施したこともある。ひとりひとりのリズムを把握している。バナナジュースや起床時の水分摂取、歩行運動などを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日を基本としている。順番は希望を優先している。タイミングをのがすと入らない方や、血圧の変動が激しい方などを優先して考えることもある。	広めのユニットバスで、造りは共通である。概ね午前から15時くらいまで、順番は希望も聞きながら対応している。入浴日以外の対応も柔軟に行い、拒まれた際などにも変更している。適宜浴槽の湯も入れ替えたりして清潔を保ち、入浴剤や柚子など季節浴を楽しむこともある。皮膚観察の場としても行い必要時には記録にも残している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣では、体調に悪影響だと感じる方は、少しずつリズムを整えるようにしている。朝は、必ずカーテンを開けて陽を浴びてもらい、夕方以降は、だんだんと心地よく眠れるように、声のトーンを落とし、照明をだんだん暗くし、職員の動きもゆっくりとしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ず目を通すようにしている。13名の方は、薬局が薬を管理しており、介護職や医師との連携がよくできている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	孫や娘との手紙のやりとり、電話での会話は大変喜ばれる。食器洗いなどの家事は、自然と役割が定着している。職員ひとりひとりが、毎日お礼を伝えるようにしている。献立は、今入居されている方の好みに合わせている。		

R2.6自己・外部評価表(グループホーム春の山)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりのその日の希望を叶えることは難しい。散歩が好きの方、ドライブが好きの方、買い物に行きたい方などの希望を忘れずに実行できるように、事務所の予定表で計画している。	要望の強い際には個別ケアでの外出にも対応している。本部のリフト車をつかって春の花見などは全員で行くこともあり、全体では年に2、3回地域のお祭りや花火大会などに行っている。近隣への散歩は日々行っており朝市での買い物なども楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金や印鑑等重要な物は、所持しないとしている。安心するからと、少額を所持されている方もおられる。一人ずつ、金庫で管理しており、可能な方は職員付き添いのもと、支払いをしていただくこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が届くことが多い。希望があれば電話をかけている。電話の希望がなくても、心配事などがあれば、電話をかけて安心してもらえるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には、もみじやつつじ、紫陽花があり、ガーデニングが得意な職員がたくさんの花を育てている。又、玄関やリビングにも季節の花や物を飾っている。夜間使用する電気は、温かみのある黄色を使用している。	ユニットが左右対称に分かれ、中心に20畳ほどのウッドデッキがあり、両方から自由に出られる。緑も多く、周囲も開けており、各所の天窓からの採光も非常に全館明るい。トイレはユニットごとに4か所あり、居室の隣に配置し直ぐにいけるように考えられている。ユニット同士は扉で隔てられるが開放すれば回廊式になり、歩行訓練にも使われる。リビング内の小上がりの和室スペース、家族用のゲストルームや、廊下のベンチなどもあり、気軽に休むこともできる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間は全員一緒としているが、それ以外は居室で編み物や廊下で歩く練習をしたり、他の方と一緒にいれば、おしゃべりしたり、自由に過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファ、仏壇などを持ち込まれている。入居前に、新しく準備せず、できるだけ、使い慣れた者を持ってきていただくように伝えている。入居後は、動き等に合わせ変更することもある。	居室はリビングを囲んで周囲に配置されており、見守りもしやすい。電動介護ベッド、クローゼットが備え付けられる。作り付けの棚もあり、テレビや仏壇など使い慣れたものの持ち込みも自由にできる。居室も基本的なドアを開けておりプライバシーの確保にも留意されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ちょっとした変化に混乱される方がおられるため、できるだけ環境をかえないようにしている。動きや理解力を把握して、配置などの工夫をしている。		